

令和4年度 浜松市教育研究会 数学科研究部
第1回研修会

1 リモート準備

2 全体会

- (1) はじめの言葉
- (2) 顧問校長あいさつ
- (3) 部長あいさつ
- (4) 研究主題について

〈主 題〉

新しい時代に必要となる資質・能力を育む算数・数学教育
—キャリア教育の視点から主体的・対話的で深い学びの実現を目指して—

〈重 点〉

- ①キャリア教育の視点から「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成
- ②何を知っているか、何ができるかという「知識・技能」の習得
- ③知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ④どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ⑤「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現

〈テーマ設定の理由〉

文部科学省（2015）は教育課程企画特別部会における論点整理において、「学習指導要領改訂の視点」を「『新しい時代に必要となる資質・能力の育成』、『育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し』、『アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善』からなる『育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実』と示した。小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント（文部科学省、2017）において、改訂の基本的な考え方を「『教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成』、『知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成』など」であることを示した。新学習指導要領が示す「新しい時代に必要となる資質・能力」を算数・数学教育において育成していく必要がある。

第3次浜松市教育総合計画（2015）において、キャリア教育充実のための施策が示されている。生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現し

令和4年5月25日 15時00分
部会毎代表の学校 オンライン

ていくため、キャリア教育の視点から実践していくことが必要である。
また、近年では新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでのような「対話的な学び」が難しくなった。その中で一人一台のタブレット配置が進み、ICTの利活用が教育現場での課題になった。より効果的な機器の活用を考えていくことで、今まで以上の「対話的な学び」を目指していくことが必要であり、そこから「主体的な学び」「深い学び」につなげていきたいと考える。

3 講話

主題 『「主体的・対話的で、深い学びの実現」を目指した授業改善について』

講師 浜松市立蛸塚中学校長



4 連絡事項

(1) 第2回研修会

日時	研修内容	会場
8月2日(火) 午前9時30分 運営委員 午前8時30分 集合	全体会(9時30分) 顧問校長あいさつ 部長あいさつ 日程確認	教育会館
	全体会(10時00分) 大会議室 指導主事の講話とワークショップ	
	分科会(11時00分) 研究発表 研究協議 指導講評	
	解散(12時00分)	

(2) 第77回関東甲信静数学教育研究山梨大会

日時	研修内容	会場
10月28日(金)	関東甲信静数学教育研究山梨大会	バルクラシック甲府 甲府市立北中学校

(3) 第3回研修会

日時	研修内容	会場
11月2日(水) 午後2時00分 運営委員 午後1時00分 集合	研究授業(午後2時00分) 各校 分科会(午後3時00分) 研究協議	光が丘中学校 南部中学校 富塚中学校 高台中学校

(4) 西部数学サークルについて

(5) 研修のまとめについて

定期テストの「思考・判断・表現」を問う問題を各学校で集約して提出(1人1問)

5 グループ協議(各会場)

(1) 評価方法について

- ・評価の観点が昨年度から4つから3つに変わって、どのように評価を変えたか。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」について何をどのように評価しているか。



(2) 各グループ発表(各グループ2分程度)

(3) 指導講評(各会場の校長先生または教頭先生)

(4) 終わりの言葉(各会場の副運営委員)